

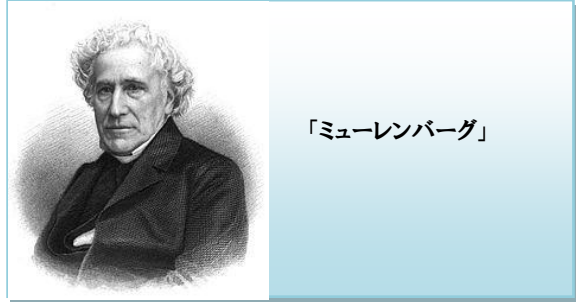
4月8日

アメリカ大陸の殉教者

William Augustus Muhlenberg

(1796.9.16～1877.4.8)

～米国聖公会神学者・聖歌作家～



この日はアメリカ大陸の殉教者を覚える日であるが、「日本聖公会祈祷書解説」によれば、この日は19世紀に活躍したアメリカの聖歌作家であるミュールンバークが亡くなった日であり、その日にあわせて小祝日を設定したとのこと。またアメリカで黒人の公民権運動を指導し、1968年4月4日に銃弾に倒れたノーベル賞受賞者マーチン・ルーサー・キング Jr.のことも同時に覚えて欲しいと書かれている。

ここでは特に、アメリカ聖公会の神学者で聖歌作家でもあるミュールンバークについて触れていきたい。

ミュールンバークはフィラデルフィアで、ドイツ人家系のもとに生まれる。家族はみなルター派の教会員であったが、英語を使う礼拝に引かれ、彼は聖公会へと移る。

ペンシルバニア大学を卒業し、その後も神学を学んで言った彼は、各地で教会活動を行う。1837年～46年にはセント・ポールズ・カレッジの教授として働き、1846年にはニューヨークに聖餐教会を設立して牧師として働く。この聖餐教会は、当時指定があった会衆席を自由にし、また教会の付属学校の運営にも着手する。さらに失業者資金の設立や、市街地の貧しい子どもたちを

田舎に旅行させるといった働きをおこなう。これらのことでミュールンバーク自身は貧しい生活を送っていたが、かえって清貧に徹していったという。

また若いころからエキュメニカルな視点を持った彼は、音楽家・詩作家として、多様なキリスト教伝統の中から芸術性豊かな礼拝様式を進展させていく。さらに1853年の主教協議会においては、すべての教派の教役者が協働することであらゆる階層の人々に福音を宣べ伝えることが必要だと考え、そのために教会運営上の手法や教会法上のいろいろな変更をすべきではないかと提案する。

ミュールンバークは彼が60歳を超えた1857年にニューヨークに聖ルカ病院を設立し、貧しい人、困っている人のために、その残りの生涯すべてを費やす。(Y)

<特禱>

全能の神よ、あなたは証びとを召して国々、ことにアメリカ大陸に遣わし、その生涯によって栄光を現されました。どうか殉教者たちとの交わりが強められ、わたしたちもその模範に倣い、感謝して忠実にみ国のために働くことができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン